

目次

*はじめに

*皇太子の料理人

明治のコックさん／天皇の御宿泊所札幌豊平館

開港地に洋食のルーツあり／「志か」のレットル貼り鹿肉缶詰発売

父は豊平館で皇太子の料理人に／ミートコロケと白い手袋

ザリガニにまつわる珍談／謹厳で親身な高嶋工場長

*苦小牧に洋食店開店

退職金百五十円也／ロマンの香り漂う大正の洋食店

父のお供で東京に仕入れに／鯉のぼり大火で店を消失し再建

東京で入院中の母を大震災が襲う／町で最初のラジオを購入

地元の天然氷でビヤ樽を冷やす／ビール党の兄と「国民酒場」に並ぶ

*夢多き大正少年

腕白坊主げたスケートで滑る／活動写真に心躍らせて

雑誌作りと投稿に夢中／子どもたちの夢を運ぶ駒鳥童話会

ジヨニ黒のかほり／紅茶と珈琲

*家業の洋食の世界に

身を持って覚えた西洋料理／牛一頭、調理場まで馬車で配達

クリスマスのご馳走、七面鳥／小説にも登場したエプロンさん

*憧れの斎藤茂吉

「山下君は少年だね」と茂吉先生／メモ好きな斎藤茂吉
初めての電蓄コンサート

*洋食あれこれ

シャリアピンステーキ／合の子弁当
ハヤシライス／カレーライス
チキンライスカレー／コロツケ、トンカツ…エトセトラ

*食材、食品あれこれ

スモークサーモン／長野の馬刺し屋とパリの馬肉屋
ウスターソースの香り／うま味のナゾ

トマトは赤茄子／北海道の味シシャモ

*戦時中、終戦直後のこと

戦争が始まり外食券食堂として営業／戦時中は「洋食店」の言葉も使えず
父、十治郎の死を看取れず／進駐軍ONLIMITS

*川上澄生との出会い

「書窓」で川上澄生を知る／棟方志功さんの風変わりな逸話
列車通学楽しむ川上先生／川上先生、瑞宝章を首にぶら下げて

*さまざま文化人が訪れて

民芸建築の第一人者、伊東安兵衛さん／芹沢銈介氏がロゴをデザイン

報道写真の先駆、名取洋之助さん／ゆかいな山下清画伯

入江相政さんの思い出／思い出深い陶芸家バーナード・リーチさん

孤高の画家、曾宮一念さん

*あとがきにかえて